

食と肥満による腸内細菌叢異常と泌尿器癌進展の制御と標的分子の同定



羽渕 友則

Habuchi Tomonori

教授 博士（医学）

大学院医学系研究科 医学専攻 腫瘍制御医学系 腎泌尿器科学講座

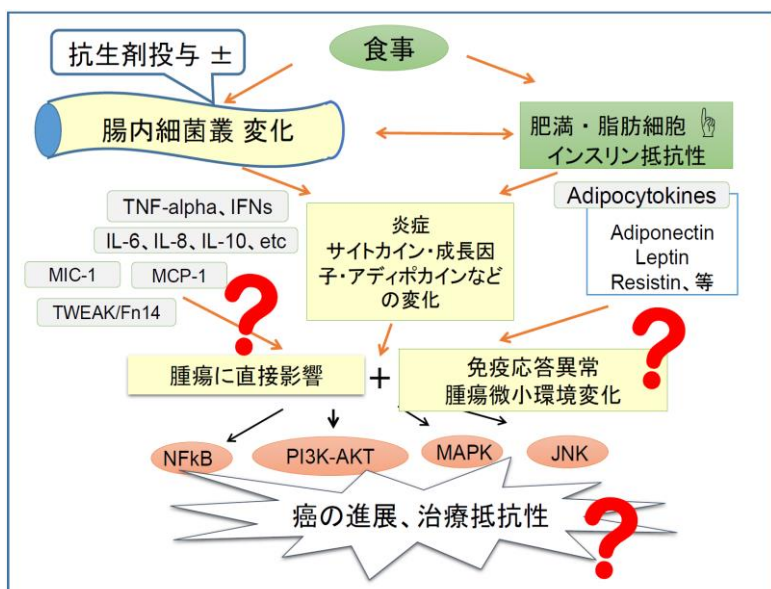
研究キーワード

前立腺癌、膀胱癌、腎癌、肥満、進展、腸内細菌叢、食事、分子標的、新規分子
Microbiome、高脂肪食、腫瘍微小環境、腫瘍免疫

研究概要

★近年の泌尿器癌（特に前立腺癌や腎細胞癌）の増加は著しいが、原因として高カロリー・高脂肪食の影響が示唆されている。★一方、腸内細菌叢（gut microbiome）が泌尿器癌を含めた多くの癌の化学療法や免疫療法の成績に大きな影響を示すことが報告されている。さらには患者の食生活や抗生剤投与によってこの腸内細菌群に変化がおり、癌の治療経過や治癒に影響することも報告されている。★本研究では、近年のメタボロミクス、細菌メタゲノム解析、等の包括的解析手法の発展を生かして、食事と肥満、それらに伴う腸内細菌叢の変化による

泌尿器癌進展や治療抵抗性の分子機構を多方面から解明、標的分子を同定し、治療や進展予防につなげる。



予想される応用例

有効な標的分子がみつければ創薬につなげる。

産業界へのアピールポイント

腸内細菌叢は修正可能な領域であり、本ストラテジーで癌治療で恩恵を受ける患者数は膨大である。